

7 子豚の斉一化を目的とした哺乳技術の検討

ねらいと成果

生時体重のばらついた子豚は、離乳後のバラツキはさらに大きくなるため、育成及び肥育途中において群の組み替えが行われ、大きなストレスを受けて発育停滞を招く。そこで子豚の離乳時体重の斉一化を図るために1腹子豚へはグループ分けを行い制限哺乳、2腹子豚へはグループ分けを行い、グループ哺乳及び分割離乳さらに混合哺乳を行った。その結果、1腹子豚の7日間の制限哺乳及び2腹子豚のグループ哺乳及び分割離乳さらに混合哺乳は離乳時体重のバラツキを有意に改善した。

内容

試験はランドレース種系の経産豚35頭とその産子350頭を用い、各区5反復により、表1に示すように区分した。1腹10頭子豚の制限哺乳は生時体重により大、小グループに分け、大グループの子豚を仕切により3時間×2回/日、人工乳給与下で制限哺乳させ、小グループの子豚に母乳を十分摂取させた。2腹20頭子豚のグループ哺乳は生時体重により大、小グループに分け、2腹20頭の子豚のうち、5頭あるいは10頭の子豚が体重5.5kgに達した時点で分割離乳を行った。混合哺乳は分割離乳後、2腹の母豚の仕切を外して混合哺乳させた。なお、試験区の母豚には母豚の損耗防止及び子豚の発育に有効な中鎖脂肪酸トリグリセリド(MCT)及びVB₂をそれぞれ日量250ml及び飼料の0.1%給与した。

結果を表2に示したが、子豚離乳時体重の変動係数は4区で最も低く、3区及び2区も対照区に比べて有意に低くなった。子豚の離乳時体重は3区が最

も大きく、試験区は対照区に比べて重くなる傾向がみられた。子豚体重5.5kgを基準に分割離乳を行った3区及び4区の分割離乳日はそれぞれ18日齢及び20日齢であった。母豚の授乳期間中の飼料摂取量は各区にほとんど差はみられなかったが、可消化エネルギー(DE)はMCTの給与により試験区が対照区に比べて有意に高く、さらに体重減少率は1区で最も低く、2区も3区、4区及び対照区に比べて有意に低くなった。

以上の結果から、1腹子豚では7日間の制限哺乳、2腹子豚ではグループ哺乳及び分割離乳さらに混合哺乳は通常管理における子豚に比べて離乳時体重のバラツキは有意に改善された。また、2腹での分割離乳は20日齢に体重の上位10頭で行うことにより斉一性はより改善された。

普及上の注意事項

試験による効果は1腹よりも2腹で大きくなったことから、母豚の群管理による2腹以上の分娩の同期化が必要である。

岩本 英治 (中央農技・家畜部)

表1 試験区分

区分	子豚への処理	処理条件
1 腹	1 区 制限哺乳	生後3日間
	2 区 制限哺乳	生後7日間
2 腹	3 区 分割離乳・混合哺乳	上位5頭で分割離乳
	4 区 分割離乳・混合哺乳	上位10頭で分割離乳
対照区	通常管理	

表2 子豚及び母豚の成績

区分	体重(kg)		変動係数(%)		分割離乳日(日)	母豚飼料摂取量(kg/日)	母豚DE充足率(%)	母豚体重減少率(%)
	生時	離乳時	生時	離乳時				
1 区	1.45	6.19	15.1	19.5ab	—	5.23	101.1a	5.8a
2 区	1.45	6.12	14.8	16.5bc	—	5.29	99.4a	6.2a
3 区	1.42	6.79	14.2	14.8cd	18	5.18	100.6a	8.1b
4 区	1.41	6.65	14.6	12.1d	20	5.13	100.2a	8.6b
対照区	1.45	6.04	14.8	23.8a	—	5.39	91.6b	10.9b

a, b, c, d: 異符号間に有意差あり (p<0.05)